

環境共生資源学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 両角和夫

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本特論では、環境と経済が両立する地域社会の構築という観点から、地域資源のもつポテンシャルを最大限活用して、地域の自然環境の修復・維持と経済の振興を一体的に達成するあり方を、「社会技術」の方法論を用いて追求する。「社会技術」とは、社会問題を解決する科学・技術のことであり、そこでの方法論とは、社会問題の解決のために社会科学と自然科学を融合して取り組むことである。本特論では、今日の農村地域が直面する、自然環境の悪化と経済の不振という社会問題に対し「社会技術」による解決を考えるものである。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

地域資源	地域社会	社会技術	社会問題
地域環境ビジネス	基盤整備	自然生態系	地域経済

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	課題の設定 (1~2週)	・今日の農村地域社会が直面する問題の意味と実態へのアプローチを紹介する。	◎本講義のねらいは、農村地域社会の抱える問題を正確に捉え、環境と経済が両立する地域社会の構築という観点から、基礎的知見を提供することにある。 ◎この問題に関して関連する本、資料および授業で配布する資料等を参考に、自分なりに問題を捉えておくこと、また、講義後内容を復習しておくこと。
2	我が国における再生可能エネルギーの生産等 (第3~5週)	・地域資源を使った再生可能エネルギーの生産、技術などを紹介、検討すると共に、今後について展望する。	
3	地域環境ビジネス展開の可能性 (第6~9週)	・地域資源をしいた地域環境ビジネスの実現に必要な社会システム利用・構築、主体形成のあり方の検討する。	
4	社会的共通資本の展開・問題、今後の展望等 (第10-12週)	・社会的共通資本である農地その他のインフラ整備(土地改良事業等)の実態と問題を把握し、今後を展望する。	
5	環境と経済が両立する社会構築に取り組む事例 (第12-15週)	・関連する内外の事例を紹介し検討する。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

自然資本の経済／ポール・ボーケン、エイモリ・B／ロビンズ他/日本経済新聞社 (2001年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

社会的共通資本／宇沢弘文/岩波新書 (2000年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業中に課すレポート (60点) と授業参加態度、すなわちディスカッション (40点) をもとに評価する。

◆オフィスアワー

毎週水曜日の午前、研究室で質問等を受け付ける

◆その他受講上の注意事項

指定した、教科書、参考書を熟読しておくこと。